

南アルプス市立大明小学校 自己評価書

平成23年7月 実施

1 教職員による自己評価

本校では、1学期末と2学期末に、「大明教育 実践の評価」というアンケート形式による教職員の自己評価を実施している。

教育目標について・・・3項目 経営・組織・・・4項目
教育課程（全般 各教科・総合的な学習 道徳 特別活動 学校行事）・・・10項目
生徒指導・・・3項目 地域社会との連携・・・4項目 その他・・・4項目

◎1学期末の評価のねらい

- ◇22年度の実践の評価および1学期の実践の評価を踏まえ、今年度の課題を明らかにする。
- ◇新教育課程本格実施に伴う課題をさぐる。
- ◇学校・家庭・地域の連携・協働のあり方を探る。

◎評価方法

- ◇A：よい B：ふつう C：改善が必要 の3段階で評価
- ◇評価が低かった項目（BとCが半数より多い場合）ものについて、改善策や今後の取り組みの方向性を探る。

◎考 察

- (1) 「教育目標について」の評価項目で、昨年度重点項目として取り組んだ「学校教育目標や経営方針が児童や父母に理解されるよう配慮されたか。」が、A（よい）：66（78）% B（ふつう）：33（21）% C（改善が必要）：0（0）%であった。家庭との連携は教育効果を上げる基本であるとの考えから、平成23年度も重点的に取り組んでいきたい。

※（ ）内は昨年度の割合

【改善策1】保護者に学校の教育目標や経営方針を伝え、相互理解を深め、連携して取り組む。

*懇談会・通信・学校メール配信・ホームページ・電話連絡・家庭訪問・連絡帳等を活用し、必要に応じて、それぞれの立場で、タイミングを考慮し、きめ細かい対応を心がけ相互理解・連携に努めていく。

- (2) 「教育課程」について、概ねAの（よい）という評価であったが、「道徳的实践、道徳性が高められていると思うか」の項目については、BがAを上回った。また、授業時数の確保についてはCと評価した職員もあった。教職員が自らの教育活動について厳しい見方をしていることがわかる。

具体的記述の中には、

☆行事の準備や児童の指導に追われて、授業時数の確保が難しかった。

という意見があった。また、職員会議においては、とくに算数において指導内容が増えたため、十分な理解をさせることが出来ないまま次の単元に移らなければならない状況がある。といった意見も切実な声としてあがっている。

教育課程の完全実施にともない、厳しい時間配分の中で、児童にゆとりをもった指導が出来ないでいるもどかしさが感じられる。

また、近年の夏の暑さへの対応も大きな課題となっている。家庭と連携してできること、学校

としてできることを考えて、児童が健康的に安心して過ごせるような工夫が求められている。

【改善策2】

- ① 関わり合いのある授業づくりを柱にすえて、児童のコミュニケーション力や判断力といったような見えない力をつけつつ、見える学力の定着を確実にできる教育課程の実施を目指す。
- ② 暑さへの対応を工夫し、全校的に取り組む。

(3) 「生徒指導」についてどの項目もA評価の割合が高い。全職員がチーム大明で、といった職員間での共通理解のもと子どもの指導に当たってきた効果は大きい。

支援委員会の必要性やその活用のあり方について意見が出された。児童の情報については、経過をみながら、全職員が情報共有することが望ましいものについては共有するようにする

(4) 家庭・地域社会との連携の項目では、学校応援団の活用について、支援ボランティアの方が熱心に活動している姿に感謝しているという意見が寄せられた。昨年度から始まった取り組みであるが、初期の目標に沿った運営がなされていると思われる。一方保護者との連携に関しては、「教師と保護者が子どもの生活について話し合う機会がないので、年度の中間で一度設定できればよい。」という意見が寄せられている。

【改善策3】限られた回数をどう効果的に運営していくかの視点で考えることが大事である。それぞれの学年が児童の実態を見ながら少人数での話し合いを計画するなど、PTA学年部会の内容を考えていくようにしていくことが重要である。

(5) 「その他」で、「休み時間における児童の過ごし方に問題はないか。」「給食中の過ごし方やマナーに問題はないか。」について、BがAを上回った。これもCはなく、特に悪い評価ではないかもしれないが、昨年度と同様の傾向が見られた。

【改善策4】 給食指導・休み時間の過ごし方への指導

- * 休み時間の過ごし方に注意を払い、ルールを守っていない事例は子どもたちにも伝え、児童が自分自身野の問題として意識化できるように児童会を中心に組み込んでいく。
- * 無言清掃を定着させるため、なぜ無言で行うのかを理解させ、全員で取り組んでいく。無言清掃とは、集中して一生懸命掃除をすること、どうしたらきれいになるかを考えて掃除することであることを共通理解し、きちんと取り組ませる。
- * 給食指導については、本年度も引き続き取り組んでいく。昨年度の子どものアンケート結果から、子どもが考える「食事の楽しさ」と「食事のマナー」には少しずれがあるのだろうと思われる。今後も給食時のマナー（箸の使い方・食器の置き方や持ち方・大声で話したりするなど）については、担任とTT・栄養士で連携しながら指導していく。

2 児童アンケート

集計結果

① 学校は楽しいですか。

いつも楽しい：62, 8% だいたい楽しい：32, 5% 楽しくないことが多い：4, 7%

② 学校へ行きたくないと思うことがありますか。

ない：50, 5% ほとんどない：37, 9% 週1回くらいある：5, 4% よくある：6, 1%

③ 学校の勉強が分かりますか。

よく分かる：42, 2% 大体分かる：49, 8% あまり分からない：7, 2% 分からない：0, 3%

④ 困ったときに相談する人がいますか。

いる：90, 9% いない：9, 1%

⑤ 無言清掃がしっかりできましたか。

よくできた：29, 6% できた：47, 3% あまりできなかった：19, 8% できなかった：3, 2%

⑥ 進んであいさつができましたか。

よくできた：44, 4% できた：40, 0% あまりできなかった：12, 2% できなかった：2, 8%

考察

(1) 学校が楽しいと思っている児童がほとんど。でも楽しくないと感じている児童を把握し、その気持ちに寄り添うことが大事。

今回のアンケートでも始めの設問として、学校が楽しいかと尋ねた。次の設問で、「そのわけを教えてください」と尋ね、また理由を自由記述で書いてもらっている。その結果を見ると、子どもたちにとって「学校が楽しい」ものになるかどうかは、友だち関係が大きな要因であることが分かる。一方、「楽しくないことが多い」は全校児童全体の4, 7パーセントで少数だが、「いじわるをされる」「いやなことを言う」などの理由があがっている。各担任は、Q-Uで明らかになっている個人データとも照らし合わせながら、注意深く見守る・声かけをするなどの努力が必要である。

(2) 「学校へ行きたくないと思うときがありますか」の項目は、児童の心のシグナルを見つけるために利用する。

この項目についても理由を記述してもらっている。「学校に行きたくない」理由の中に「眠たい」「疲れている」などがみられる。これらの理由の原因として、家庭での生活習慣によるものもあると予想される。「早寝早起き朝ごはん」を心がけ、子どもたちが元気に登校できるように、家庭の協力が必要である。また、「疲れている」などの理由を書いても、実際には学習面や友達関係の悩みが潜んでいることも考えられる。子どもたちの様子をよく観察し、本当の悩みは何かをしっかりと把握する必要がある。

(3) 関わり合いながら学びを深めていける授業づくりを

学校の勉強については約半数の子どもが「よくわかる」と回答している。「よく分かる」「だいたい分かる」が全体で92%、5年生は全員が分かると答えている。子どもの学習の理解の実態がこの回答どおりの結果だとうれしいのだが、子どもは「分かる」と思っている、実態は必ずしも十分に理解できているとはいえない。子どもの感覚と学習の定着度の実態にはずれがあることも多いので注意が必要である。一昨年度より本校では、時間割に朝学習を位置づけた。

昨年度からは、全校的な取り組みとして、百マス計算や漢字学習などの基礎的な学習内容の定着に力を入れてきた。家庭の協力も得ながら勧めてきたこの取り組みを通して、子どもたちには足し算や九九などの基本的な計算力が育ってきたと実感しているところである。本年度は、この基礎の上に、表現やコミュニケーションなどを通して仲間と関わりながら学ぶことのできる児童の育成を目指している。「学校はまちがえるところだ」と、みんなが間違いを恐れず、そこから学んでいく姿勢を大事に出来る学級づくりが大事になる。

(4) 一人一人の子どもを大切に・・・

私たち教師は、このようなアンケートを始め、あらゆる機会に、子どもの声に謙虚に耳を傾けていかねばならない。児童アンケートの結果から自分の学級や学校の子どもたちの様子や状況をしっかりと把握し、「〇〇くん、きょうはどうか」「◇◇さん、がんばっているね」と、全職員が全校の子どもたちに目を配り、一人一人の子どもを大切にしていきたい。

3 保護者アンケート

ほとんどの項目でA・Bをあわせた肯定的評価の割合が高かった。概ね大明小学校の教育が保護者に理解され、評価されていると見てよいと考える。しかし、項目によってはAとBの割合が逆転していたり、CやDの回答も見られる。設問4・6・11ではC評価の割合が他の質問項目に比較して高くなっている。設問1～8までは学校教育・学校経営・学校運営について尋ねた内容である。平成22年度の集計と比較してみると、まず設問1・2については、今年度のほうがA評価の割合が高くなっている。しかし、設問4～8に関しては、今年度のほうが低い結果となった。とくに、5・7・8については、A評価の落ち込みが大きいため、学校としてあらためて原因を追究し、手立てを考えていく必要がある。また、設問4「学校では、子どもの長所や個性を理解し、教育に当たっている。」設問6「学校は、子どもの悩みや心配事に気づき、積極的に相談に応じている。」は、今年度、Cの評価割合が2桁になった項目である。設問11から14は、家庭や地域での子どもの姿について尋ねているが、昨年度とほぼ同様の結果となった。本年度から項目にとり上げた「子どもは早寝・早起き・朝ごはんの基本的な生活習慣が身についている」については、C評価が12.5%と高かった。昨年度から家庭と連携しながら進めてきた取り組みであるが、毎日のことであり、はっきりと結果が見える内容なので厳しい回答となったのではないと思われる。

考察1

設問4は、昨年度までは「学校では、子どもの長所や個性を伸ばすような指導が行われている。」というものであったが、昨年度の自由記述に「学校では、個性や長所を伸ばす」ことよりも集団生活のルールや意義について学んでほしい」といった意見がいくつ寄せられたため、今年度は質問を「学校では、子どもの長所や個性を理解し、教育に当たっている。」と変更してアンケートをとったが、評価結果は、昨年とほぼ同様となった。自由記述には集団の中の一人ひとりの児童の個性や特性を理解し、寄り添いながら導く教師の専門性を期待する意見も見られる。本校には、多人数のクラスもあり、担任だけではすべての児童の長所や個性を十分に把握できにくい面もある。一人ひとりを大事にし、きめ細かな対応を可能にするための学校の工夫が求められる。

<今後の改善策>

きめ細かな対応を可能にするため、子どもたちの現状を見据えながら、管理職は職員の配置や指導体制について柔軟に対応をしていきたい。また、全校の教職員が、児童に関するさまざまな情報を担任に伝え、指導に生かせるようにする。

考察2

設問6の「学校は、子どもの悩みや心配事に気づき、積極的に相談に応じている。」について、昨年度はA：41.5% B：51.2% C：7.3%であった。本年度は、A：35.4% B：45.8%、C：16.7%と昨年度に比べるとCの割合が高い傾向が見られた。学校では、毎月の第4金曜日を児童に関する情報交換の日と定め、全職員が子どもたちの情報を共有し、同一步調で見守りや指導に当たれるようにしている。担任が気づかない児童の行動やつぶやきなども担任に伝えるようにし、児童の悩みや心配事の早期発見につなげている。また、保護者に対しては親としての悩みやとまどいを理解しながら、できるだけ相談しやすい対応を心がけ、積極的な話し合いや助言を行っていくという学校の姿勢をいっそう明確に保護者に伝えていくことが必要であると感じている。

<今後の改善策>

教師は子どもの状況をていねいに見つめて課題への対応を考える。また子どものことを心配す

る親の気持ちを受け止め、ていねいな対応に努めるようにする。教職員と親は、ともに子どもの成長を支えるパートナーであるという意識を忘れない。学校からは、学級や学年の取り組みや子どもたちの様子などの情報提供に努めると同時に、家庭での子どもたちの生活の様子についての把握に努める。

考察3

設問8の「学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。」について、今回は、不審者対応での意見はなく、地震発生時の対応についての意見が寄せられた。地震発生時の学校の対応に不安を抱いている保護者も多いと思われる。学校では3月11日の大地震の以降、児童の避難方法の反省から、地震避難マニュアルを見直して保護者にも伝えた。しかし、地震の発生時間帯によっては、対応が不明なこともあるため、マニュアルの早期の策定と保護者への情報提供が必要である。

<今後の改善策>

すべての保護者が地震発生時における児童の動き、学校の動き、保護者の動きが把握できるよう、早期の地震時避難マニュアルを策定し、情報共有する。

考察4

設問11の「子どもは早寝・早起き・朝ごはんの基本的生活習慣が身につけている」についてCと評価した割合が高い。基本的生活習慣の確立は本校の教育目標【自ら考え、活動する心豊かな子ども】を育成するための必要条件として、食育とからめながら昨年度から取り組んでいる内容である。子どもの生活時間を見直し、家庭学習の習慣化も含めた家庭と学校とが一体となった取り組みにより、少しずつ成果も出始めているところであるが、家庭によってはその重要性は理解できていても、現実にはそこまで達成できていないということも考えられる。

<今後の改善策>

すべての学年のPTA保健目標が「早寝・早起き・朝ごはん」である。23年度の第1回学校保健委員会において校医先生からもその意義が話され、保健便りの特集号で内容を各家庭にお知らせしている。今後とも家庭と連携しながら、親だけでなく子ども自身が意識化できるよう、さまざまな機会を捉えて指導を続けていく。

考察5

設問14の「子どもは家庭や地域の中であいさつをしている。」についてのA評価の割合が低い。昨年度も同様な傾向であった。アンケートにも地域で子どもたちのあいさつが出来ていないという意見が寄せられている。学校では児童会を中心にあいさつ運動に取り組んでおり、校内では子どもたちの元気なあいさつが交わされていて、学校に来た保護者からもあいさつがすばらしいとの声もいただいている。しかし、このあいさつ運動がなかなか地域にまで浸透していないようである。昨年度の改善策のとおり、安全パトロールの皆さんにはあいさつ運動への協力をお願いしている。

<今後の改善策>

あいさつは人間関係づくりの第一歩であり、社会生活を営む上での基本的なマナーである。学校ではこれまでと同様、教師のほうからできるだけ名前呼びかけ、明るいあいさつをしていくことを続ける。また、家庭での意識づけのための取り組み、例えば親子で標語を考えるなどの具体的取り組みも必要である。